

大会名 Competition	第72回 秋田県秋季男女総合バスケットボール選手権大会
女子決勝	Year Month Day Time 2017 年 9 月 24 日 10 : 30
場所 Place	鹿角トレーニングセンターアムバス



秋田県バスケットボール協会

チームA	チームB					
プレステージ	湯沢翔北高					
108 ○	52 ●					
<table border="1"> <tr> <td>36 1st 16</td> </tr> <tr> <td>14 2nd 8</td> </tr> <tr> <td>25 3rd 17</td> </tr> <tr> <td>33 4th 11</td> </tr> <tr> <td>OT</td> </tr> </table>		36 1st 16	14 2nd 8	25 3rd 17	33 4th 11	OT
36 1st 16						
14 2nd 8						
25 3rd 17						
33 4th 11						
OT						

主審:Referee
千葉 俊彦 秋田

副審:Umpire
佐藤 憲昭 秋田
菅原 桃子 秋田

テーブル・オフィシャル:Table officials
鹿角市バスケットボール協会

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
0		村 木 愛		-	-	-	-	0	4	×	鈴 木 あみ	CAP	7	0	1	5	4
1	×	久岡 真歩子		14	2	3	2	2	5		横 山 萌華		-	-	-	-	0
6	×	藤 森 恵		28	5	5	3	2	6	×	高 橋 愛		7	1	1	2	3
7		高橋 ゆつき		-	-	-	-	0	7	×	佐 藤 留菜		5	0	1	3	5
8	/	堀 田 優奈		11	1	4	0	2	8	/	伊 藤 杏香		7	1	2	0	1
11		河瀬 ひとみ		-	-	-	-	0	9	/	齊 藤 史果		4	0	2	0	2
14		岩崎 みさこ		-	-	-	-	0	10	/	伊 藤 夏希		0	0	0	0	1
15	/	田 邊 風香		8	0	3	2	4	11	/	高 橋 真衣		0	0	0	0	0
19	/	土 岐 侑加		20	2	7	0	1	12	/	小 野 寺 紅美		8	0	3	2	2
20		福 田 佐耶香		-	-	-	-	0	13		近 藤 萌		-	-	-	-	0
23	×	柿 沼 かすみ		0	0	0	0	2	14		齊 藤 可 怜		-	-	-	-	0
24		辻 本 みどり		-	-	-	-	0	15	/	清 川 璃子		2	0	1	0	1
27	×	成 田 あゆみ	CAP	2	0	1	0	2	16	×	高 橋 優南		0	0	0	0	0
32	/	大 里 悠碧		9	0	3	3	3	17	/	奥 山 理梨佳		7	1	2	0	0
51	×	澤 田 七海		16	0	6	4	1	18	×	佐 渡 ほのか		5	0	2	1	2
				-	-	-	-	0	19	/	藤 原 菜花		0	0	0	0	0
				-	-	-	-	0	20		加 藤 望希		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	21		石 川 真子		-	-	-	-	0
コーチ		相 楽 幸城							コーチ		樋 渡 真						
									Aコーチ		熊 谷 傳裕						
合 計				108	10	32	14	19	合 計				52	3	15	13	21

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

プレステージはハーフコートマンツーマン、湯沢翔北はオールコート2-1-2ゾーンプレスからハーフコート2-1-2ゾーンディフェンスでスタート。
 第1Q、開始早々にプレステージが#6村木の3Pで先制する。湯沢翔北は激しいディフェンスからリズムをつかもうとするものの、プレステージは落ち着いた試合運びでシュートチャンスを作り出し、#51澤田の速攻、#1久岡の3Pなどで着実に得点を重ねていく。湯沢翔北は思うようにシュートチャンスを作ることができず、無得点の時間が続く。#6高橋のドライブや#8伊藤のポストプレーなどで応戦するが、36-16とプレステージが大きくリードして第1Q終了。
 第2Q、プレステージはオフenseリバウンドからのセカンドチャンスを着実に得点につなげていく。また、攻防の切り替えの速い展開に持ち込み、試合を優位に進める。湯沢翔北はインサイドを攻め切ることができず、アウトサイドシュートを強いられる展開となる。50-24とプレステージがリードを26点に広げ、前半を終了する。
 第3Q、追い上げを図る湯沢翔北は、#4鈴木や#18佐渡のゴール下、#12小野寺の個人技などで応戦するが連続得点にはならず、点差を縮めることができない。プレステージは素早いパス回しからゾーンディフェンスを崩してノーマークを作り出し、#51澤田や#6藤森らが得点につなげていく。75-41とプレステージの大量リードで第3Q終了。
 第4Qに入っても流れは変わらない。プレステージは速いパス回しからのコンビネーションプレーや速攻など、内外から多彩な攻撃を展開していく。湯沢翔北はプレステージの堅いディフェンスを前にして苦しい展開を開演できず、個人技で応戦するが、終始、試合を優位に進めたプレステージが108-52と圧勝し、2年連続2回目の優勝を飾った。